

研究所だより

第292号
2010年3月23日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

< 1年間ご苦労様でした >

過ぎ去ってみれば1年というのは早いものです。この1年間の学級経営や教科経営、ご苦労様でした。様々な事柄があったことでしょう。次年度に繋がる成果も課題も明らかになったことだと思います。

早速に、次年度の構想も立てていることではないでしょうか。そこで、ちょっと学級経営について参考になればと思い、書いてみます。

【望ましい学級経営】

担任教師の指導のもと、集団生活が始まっていきます。学校・学級の生活に慣れ、それぞれの子どもなりに学校生活での自立への道を歩み始めます。しかし、集団生活であり、学級の人数分の個性が集まっていることから互いにつぶつかり合い、多様な課題が生じたり、軋轢が起こったりします。それらを担任教師の指導のもとで解決し自己実現が図られることで、学級生活への自信が高まり、さらに、いじめのない、互いの良さを認めあえるような学級集団の人間関係が深まっていきます。安心感、充実感、存在感、満足感などを実感して、さらに目標実現、課題解決に向けて自発的・主体的で行動的な子ども達に育っていきます。

学級がまとまり、子ども達が個として、集団として目標に向けて自己実現が図られるよう教師が教育・指導していくことが望ましい学級経営です。まずは、

①子ども理解

家庭環境も含め、子どもの性格や資質・能力、学校生活への思いや願い、友だち関係、教師との関係など、一人ひとりの子どもの理解に努めることです。子ども達を理解しようとする構えと努力があることで、教師との人間関係が発達し、個々の指導や集団の指導が可能となります。

- ・どの子どもにも挨拶や声かけをします。挨拶はコミュニケーションの出発点です。教師の方から明るく元気な声で積極的に挨拶の声を送るようにします。
- ・子どもの話や声をよく聞き、聴くようにします。子どもの話や声に聞き耳を立てたり、直接話をよく聴いたりして、その内容から子ども達の思いや願いなどを読み取るようにします。
- ・子どもとのコミュニケーションの機会や場を積極的につくることです。意識して場や機会をつくるようにすることです。
- ・授業の中でのコミュニケーションを大切にします。授業の時間が子どもと一緒にいる時間が一番長いのです。その課程で子どもと触れ合うことを大切にします。どの子どもも学習が楽しく分かりたいと願っています。それに応えるように子どもと関わることを大切にします。
- ・どんな行動についても、注意する前に「何があったのか、どうしたのか」を問います。まずは、事実の確認を優しい口調で聴くことです。
- ・個々に個性があることを大切にすることです。子ども一人ひとりが考えも行動も違うこと、何を望み、何を求め、どう行動しようとしているのかを理解しようとするです。
- ・子ども達は常に変容している、成長している存在であることを認識しておくことです。その認識を持って子ども達を観察していれば、小さな変化や変容を見逃さずに認め、見出すことができるようになります。

②目標の実現

子どもたちが学級生活を主体的・創造的に展開するためには、自分たちの学級の

目標を立て、その実現に力を合わせる体験や、自分たちの生活に起因する様々な問題を話し合いで解決し、よりよい生活を実現する体験などを味合わせる事が大切です。

- ・子ども達一人ひとりが、学級や教師に対してどのような思いや願いを持っているかを把握することに努めます。
- ・個々や学級の目標スローガンを大きく掲示し、常に見えるようにしておきます。それらは、自分たちの行動や活動を見直し振り返る際の評価基準や物差しとなり、それらを意識させて、良さや課題を明らかにし、次につなげるように指導することです。
- ・活動の過程で折々に評価し、目標の実現状況やそこまでの努力や工夫を評価していくことです。
- ・結果やゴールに際しては、実現状況を共に認め、喜ぶことを第一にし、改善点があれば今後につなげ生かすように励ましていきます。



③問題の解決

学級は集団生活ですから、一人ひとりの問題、集団としての問題など、様々な問題が生じます。その解決に向け、教師として、人生の先輩として指導・助言することが求められます。

- ・問題状況や実態をきちんと把握することに努めます。時に背景や要因が複雑なこともあり得るし、プライバシーの問題もあります。それだけに慎重に対応しなければいけません。
- ・解決策は可能な限り子ども達から出させ、いくつかの案を列举し、話し合わせます。その判断の基準は学級目標であり、それを大切に十分話し合わせます。

< ありがとうございます > - 池田 等 (教育センター所長)

平成17年、教育センター開設より勤務させていただき、はや5年が過ぎました。

この3月31日をもちまして退職の年齢になりました。

この間、皆様方には公私ともお世話になり、併せて教育センター業務にご協力いただき厚くお礼申し上げます。

役所生活40年、最後の5年間、子ども達と共に過ごした時間が、自分自身の大きな勉強になり充実した時間でありました。この年になりようやく子どもの気持ちや子どもの強さが分かりかけた気がします。

色々な課題を背負いながらも一生懸命な姿を見ると、自分たちが一人ひとりに寄り添いながら、子どもの時間に合わせることを大事にしていかなければならないと痛感しています。

最後になりましたが、「たくましく生活力のある子ども達」を、学校・地域・関係者で育てていただくようお願いし、お礼の挨拶とさせていただきます。

< お世話になりました > - 山崎 源生 (研究員)

2年間土佐清水市教育センター・教育研究所でお世話になりました。

教育相談担当として、いろいろと勉強させていただきました。本年度は校長先生をはじめ教職員の皆様方のご協力のもと「不登校児童生徒の未然防止、早期支援のためのネットワーク構築」を目的に、「あすなるネットワーク」立ち上げることができました。何かと多用なところに新たな連絡協議会を持つということは、大変申し訳ないと思いつつも、このネットワークを是非作り上げていきたい、子ども達を学校だけでなく、保護者、関係機関、地域すべてで見守るネットワーク、昔ながらの地域コミュニティづくりにしたいと考えながら立ち上げました。

まだまだ、やり残したことはたくさんあって苦渋の思いで異動していきいますが、この思いは次の職場で活かしていきたいと思っております。ほんとお世話になりました。ありがとうございます。